

平成 26 年 12 月 1 日
九州地方整備局
九州防災・火山技術センター

火山噴火に起因する土砂災害対応への技術力向上のため、全国の国土交通省の火山砂防担当者を対象に、雲仙・普賢岳をフィールドとして、火山噴火緊急調査訓練を行います。

国土交通省九州地方整備局では、雲仙普賢岳や桜島、霧島山（新燃岳）の噴火対応で蓄積されたノウハウを活かし、火山噴火に起因する土砂災害に対応するため各種取り組みを行っています。

火山噴火が発生し、火山灰が厚く堆積した場合には、降雨により土石流が発生する危険性が高まることから、市町村が適切に住民の避難指示の判断を行えるよう、土砂災害防止法に基づく国による緊急調査を速やかに実施する必要があります。

このため、国土交通省九州地方整備局九州防災・火山技術センターでは、国土交通省職員の緊急調査に係る技術力向上を目的に、実際に火山噴火による土砂災害が発生した雲仙・普賢岳をフィールドとして、**火山噴火緊急調査訓練**を行います。

記

●日時

現地訓練：H26. 12. 4（木） 14:00～17:00

島原市長挨拶：H26. 12. 5（金） 8:40～ 8:45

現地視察：H26. 12. 5（金） 8:50～12:00

※雨天等の場合は内容変更あり

●現地訓練内容：降灰量調査、浸透能調査、マルチコプター操作演習

●場所：雲仙復興事務所、島原市中尾川砂防事業付近

●参加人数：30名程度

お問い合わせ先

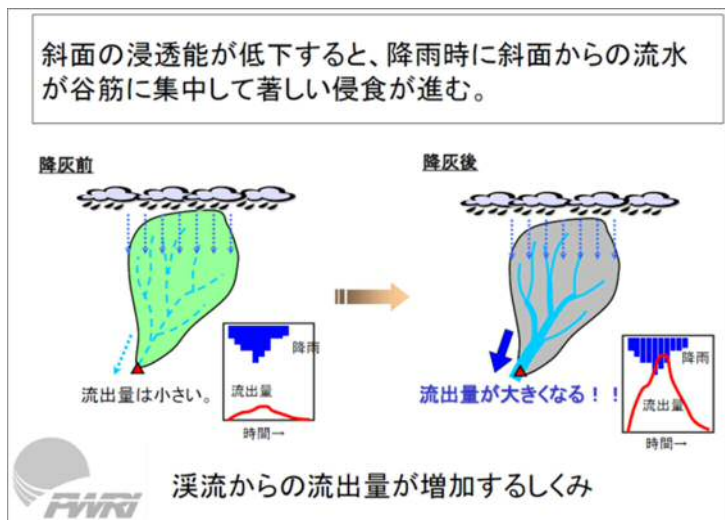
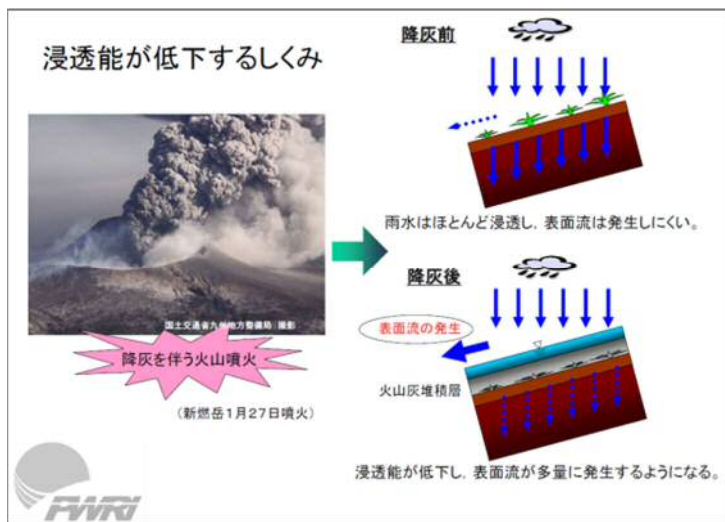
国土交通省 九州地方整備局 九州技術事務所（九州防災・火山技術センター）

火山防災減災課長 坂井 佑介（さかい ゆうすけ）

電話 （0942）32-8245（代表）

<<参考資料>>

火山噴火に起因する土砂災害（降灰後の降雨を発生原因とする土石流）



谷筋に流れが集中して著しい侵食が進むことで、通常の土石流よりも大規模な土石流が発生する危険性が高まるほか、少量の降雨でも土石流が発生する危険性が高まる。



表面流が谷筋に集中した痕跡がみられる斜面
(三宅島2000年の事例)



弱い雨でも土石流が発生するようになる
(三宅島2000年の事例)

<<各現地訓練の概要>>

●降灰量調査

火山噴火に伴う降灰後の降雨を発生原因とする土石流の危険性の高い溪流を抽出するため、降灰量調査を行う。



●浸透能調査

相対的な浸透能を把握する調査であり、測定地点における浸透能の変化から土石流の急迫性が高まっているか、低下しているかを相対的に把握することを目的として浸透能調査を行う。



●マルチコプター操作演習

火山噴火や大規模土砂災害発生時など、人の立ち入れない危険区域において、マルチコプター空撮により被災状況を調査することを想定し操作演習を行う。



<<取材にあたっての留意事項>>

● 12月4日（木）

現地訓練箇所はわかりにくい場所となっておりますので、雲仙復興事務所出発時刻である14：00までに同事務所ロビーにお集まり下さい。



● 12月5日（金）

8：40までに雲仙復興事務所ロビーにお集まり下さい。

